



できることからコツコツと 節電にご協力ください

東日本大震災の影響により、夏に向けて電気の供給が不足する恐れがあります。小さなことでも皆でやれば大きな節電となります。そこで、ちょっとした心掛けで家庭でもできる待機電力の節約。今すぐ実行しましょう。

待機電力節約のコツ

主電源を切ろう

テレビやエアコン等のリモコンを使う機器をしばらく使わない時は、本体側の主電源を切りましょう。

スイッチ付きタップを使おう

主電源を消してもわずかの電力を消費する機器があります。完全に電力消費をなくすにはコンセントを抜くことです。ただ、コンセントの抜き差しはプラグを傷めますので、スイッチ付き電源タップを使うと便利です。



購入する時は低消費電力製品を選ぼう

電気製品を購入する時は、待機電力の少ない製品を選択しましょう。



常陸大宮済生会病院
薬剤科
高橋 昌也薬剤師

「お薬を服用する際の注意点」

薬を1錠分ずつプラスチックのお皿に入れ、アルミ箔などでふたをしたPTP包装 (press through pack) は、取り扱いによっては危険がある事をご存知でしょうか。

PTP包装は1錠分ずつ切り離しておくこと、薬を包装から取り出さずに誤ってそのまま飲み込んでしまい大けがをするといった危険があります。特に高齢者に多くみられ、以下のような事故が度々報告されていて、国民生活センターにより以下の事例が提示され注意喚起が行われています。

事例1：処方された薬を包装ごと飲み込んだ。喉が痛く救急車で病院に行ったが、喉仏の裏側に薬が引っかかってレントゲンでは見つからず、数時間かけて内視鏡で取り出した。

事例2：貧血検査のため内視鏡検査を受けたところ、腸にPTP包装が刺さっていた。取り出したが腸に穴が開いていたので、手術した。

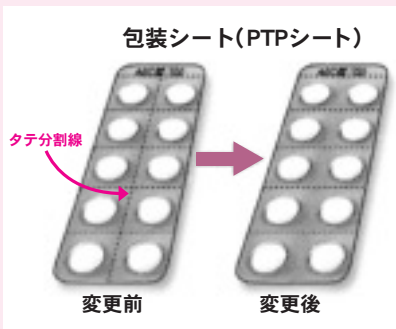
以前PTP包装は、1錠分ずつ簡単に切り離せるように縦横にミシン目が入っていましたが、現在はミシン目を一方向のみとする安全対策をとっています。PTP包装をはさみで1錠分ずつに切り分けて保存している方もいらっしゃるようですが、これではせっかくの安全対策も役に立ちません。専用の薬剤容器に入れる場合を除き、PTP包装を1錠分ずつ切り分けしないでください。

また、若い方でもこのような事故の可能性はあります。実は私も20歳代に風邪をひき高熱を出した時に、うっかり解熱剤の錠剤をPTP包装ごと口に含みました（すぐに気がつき口から出しましたが）。

PTP包装ごと飲み込んでしまう事故を防ぐため、国民生活センターでは以下の対策をあげています。

- ・ 1錠分ずつに切らない
- ・ 家族など周りにも気を配る
- ・ PTP包装を飲み込んだかもしれないと思ったら、ただちに診察を受ける
- ・ 1回分ずつの薬を袋にまとめて入れる「一包化」を活用する

皆さんもこのような点に注意し、お薬を服用してください。



出典：独立行政法人国立がん研究センター
がん対策情報センター